

牛乳鍋コンテスト

研修会と平行して、牛乳鍋コンテストを開催。各ブロックで考案したオリジナルの「牛乳鍋」を各ブロックより選出された3名ずつの審査員が自分のブロック以外の牛乳鍋を試食し、審査した。

第1位
九州
ブロック



「チーズ・だご汁(オー・やぶ鍋)」
熊本のだご汁を参考にして、チーズだご汁仕立てにして、牛乳のあたかさをアピールできるように考えてみました。

投票の結果、九州ブロックの「チーズ・だご汁(オー・やぶ鍋)」が優勝。第2位が関東ブロック、第3位が東海ブロックとなった。審査員の小山先生からは「ご当地鍋というよりそれぞれ個性があって、とても愛情のこもったおいしい鍋ばかりだったと思います」と感想をいただいた。

北海道
ブロック



「牛乳ピリか鍋」
寒い冬にピッタリのピリ辛鍋。最後のスープパスタが人気で、実際に千歳市のレストランでメニューとして出されています。

東北
ブロック



「ミルク芋煮」
東北やみやぎを代表する芋煮に牛乳をいれ、よりおいしく栄養の面でも体にも優しい鍋です。

関東
ブロック




「チーズピタリ高麗鍋」
埼玉・日高市の高麗鍋を牧場ならではの鍋に仕上げました。野菜は地場産、キムチが入り、身体の芯が温まる高麗人参が入っているのが特徴です。

北陸
ブロック




「ころころミルク鍋」
どんなに煮込んでも煮崩れない奥越前の里芋と、こしむかりの米粉が入った団子の中には秘密の具が。ラブラー牧場の牛乳をたっぷり入れ、洋風だしの味噌仕立てになっています。

東海
ブロック



「牧場のあつたか牛乳鍋」
牛乳を1.5リットル使い、水を入れなくても牛乳臭さがありません。牛乳がだしになり、満足感のあるお鍋です。お好みでパルメザンチーズをどうぞ。

近中四
ブロック



「牧場のチーズシチュー」
毎年開催している「ミルク祭り」で作った牛乳入り味噌汁「まきば汁」をベースに牡蠣やウィンナー、カッテージチーズをお団子に入れてみました。



第1位を取った九州ブロック



小山先生と各ブロック代表者による審査



ブロックの代表者が鍋を作った

各ブロックの鍋の特徴を聞き取り

事務局からのお知らせ

第13回代議員会の開催について

代議員会の開催について報告します。ご多忙の中とは存じますが、右表の予定で開催しますので、ご出席を予定くださいますようお願いいたします。また、ブロック事務局においては、平成24年度代議員会への日程の周知及び代議員会への出席依頼についても、ご配慮くださいますようお願いいたします。

日時	平成24年5月23日(水) 13時~17時
場所	東京都中央区日本橋3-4-13 東京八重洲ホール 地下2階ホール
協議事項	(1) 平成23年度活動報告について (2) 平成24年度活動計画について (3) その他

DF NEWS DFニュース 2012年3月号 発行日/2012年3月 発行/地域交流牧場全国連絡会 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-12-109F(社) 中央酪農会議内 TEL:03-3219-2624 FAX:03-3219-2622 ホール/エグゼクティブ http://www.dairy-farm.jp/



地域交流牧場全国連絡会
平成24年3月発行
DAIRY FARM NEWS

3
月号
2012

地域交流牧場全国連絡会 全国・新人研修会

基調講演:酪農における消費者交流型活動の意義と課題
グループディスカッション、牛乳鍋コンテストを同時開催



会長のあいさつ

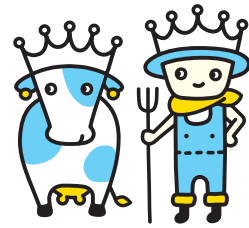
藤田 毅氏



本日は北海道から九州まで、全国各地から本研修会に参加いただき、本当にありがとうございます。昨年熊本で全国研修会がありましたが、その数週間後に未曾有の大地震が起きました。そして津波、原発の問題も起こり、未だに傷は癒えていません。被災された方々には本当に再起を願うばかりです。本日は千葉大学より大江先生に講演をお願いしております。「酪農における消費者交流型活動の意義と課題」ということですが、交牧連が12年かけて行ってきたことの中核になる問題の一つだと思います。酪農や酪農家という価値をもう一度確認していただく良い機会かと思っています。また、今回は「飲むだけではなく食べることも大事」という提案から、牛乳鍋コンテストも行うことになりました。

平成23年度

地域交流牧場全国連絡会 全国・新人研修会を開催



各ブロックの牛乳鍋を試食



大江教授による講演

全国・新人研修会を開催

平成24年2月16日から17日にかけて、地域交流牧場全国連絡会全国・新人研修会を神奈川県熱海市で開催した。

研修会では、大江靖雄氏(千葉大学大学院教授)が「酪農における消費者交流型活動の意義と課題」と題して、基調講演を行った。

講演後は、参加者57名が6グループに分かれて、「講演内容を踏まえ、今後、消費者交流活動を通じて、日本酪農の維持発展に寄与していくためには、どのような取り組みが必要か」についてディスカッションの時間を持った。

さらに、各ブロック考案のオリジナル「牛乳鍋コンテスト」を開催。ブロックごとに3名審査員を選出し、自分のブロック以外の牛乳鍋を試食し、最もおいしかった鍋を選び投票。1～3位の順位を競った。

このコンテストには管理栄養士の小山浩子氏をゲスト審査員として呼びし、試食、審査の後、全体の講評をいただいた。

2日目は、石田牧場と関口牧場に分かれ視察研修を開催。体験への思いや子供たちへの接し方などのお話や、都市型酪農の取り組みなどについて説明いただいた。

来賓あいさつ

昨年の大地震から放射能問題、口蹄疫発生による家伝法の改正、TPP参加問題等の国際的な問題など、酪農家にとっても今まで以上に負担があるかと思えます。しかし、消費者のみならずには「安全・安心」な牛乳を届けたい。その「安全・安心」のために、酪農家が日々努力していることがもっと広く伝わってくれたらと思っています。今回の研修会の出席者を見ますと、新しい方がかなり参加されています。地域にとってこのような酪農家の方が先陣を切って活動を広めていただけたらと思っています。



門谷廣茂氏
社団法人中央酪農会議
専務理事

交流型酪農経営の視野を拡大することが新たな社会的機能を広める上で有効

基調講演では、大江靖雄氏に「酪農教育ファームの意識調査」をもとに、消費者交流型活動の意義と課題について講演いただいた。

調査結果・分析から、酪農教育ファーム活動は、酪農経営資源の見直しを行うことで、より効率的な経営資源の活用につながることを期待できる。また、受入人数が多いほど、自立志向が高まることから、そのための支援が必要である。具体的な支援策として、自立化志向が男性より強いことが判明した女性のファシリテーター育成をより積極的に推進することや、男性についても特に若い世代に対して地域交流牧場や認証牧場のネットワークを活用した研究などにより社会的学習の機会を提供することが有益と報告された。



講師 大江靖雄氏(千葉大学大学院教授)

学歴: 1978年北海道大学農学部農業経済学科卒業
1980年北海道大学大学院環境科学研究科修士課程修了
専門分野: 農業経済学、農村経済学、観光経済学
主な研究テーマ: 農村ツーリズムの展開条件、農村経済の多角化、イタリア農村開発



6グループに分かれてディスカッション

単純集計のまとめ

- 現状の体験活動の位置づけは、多くの牧場でボランティアないしコスト回収レベルにある。
- 今後の位置づけでは自立化志向が高まっている。
- 料金徴収では、個別のメニューごとの体験サービスの提供よりも、セットメニューでの提供のほうがより料金徴収が行われている。
- 個別メニューでは、酪農文化体験系で料金水準と料金徴収率が高い。

意識調査概要

対象	全酪農教育ファーム257戸
実施機関	2009年10月1日～12月31日
回収率	79.4%(204件)
	東日本84.8%(北海道・東北・関東・北陸)
	西日本71.7%(東海・近畿・中四国・九州・沖縄)

調査報告はホームページで確認できます。
<http://www.dairy.co.jp/edf/chosa/kulbvq000002uut.html>

体験の有料、無料には、どちらも信念がある

講演後、参加者が6グループに分かれ、今後消費者交流活動を通じて、持続可能な安定した経営に立脚した酪農家として、日本酪農の維持発展に寄与していくためにはどのような取り組みが必要かを議題にディスカッションを行った。

グループ代表者の発表では、「体験料金を徴収出来なくてもメリットは大きいのではないかなと思う。交流活動の意味が伝わり、酪農・相対的な価値が上がるのが重要ではないか」、「体験を有料にするかどうかは酪農家次第。有料の方も無料の方も、どちらも信念があり、ただ、「酪農体験をやりたい」という思いは一緒なので、一本化する必要はないと思った。」など、様々な意見が発表された。

開催概要とスケジュール

開催概要

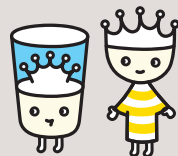
日時:平成24年2月16日(木)～17日(金)
場所:ホテル・サンミ俱樂部、
(有)石田牧場、関口牧場
主催:地域交流牧場全国連絡会

2月16日(木)

1. 開 会
2. 主催者挨拶:藤田毅氏
3. 来賓挨拶:門谷廣茂氏
4. 基調講演:大江靖雄氏
5. グループディスカッション
6. 牛乳鍋コンテスト

2月17日(金)

1. (有)石田牧場または関口牧場視察
2. 解 散



牛乳鍋制作風景



参加者全員で記念撮影

